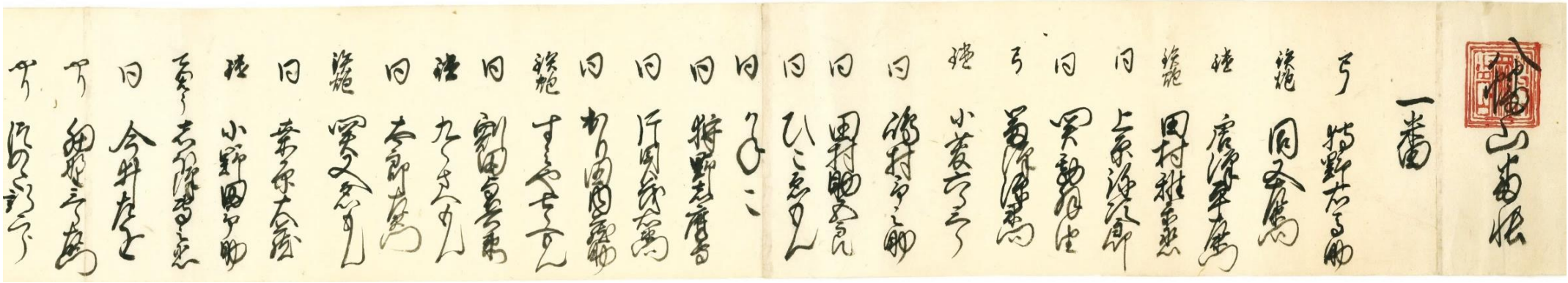


【21】 八幡山番帳（P0905 富澤久幸家文書 No.631）

〔釈文〕

（朱印）〔真田信幸〕

八幡山番帳

一番

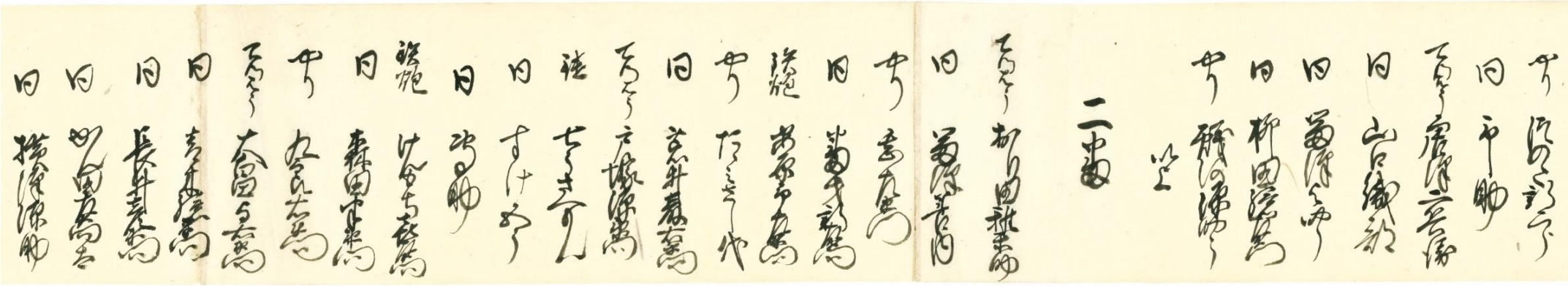
弓　狩野　右馬助
鉄炮　同　又左衛門尉
鑓　唐澤　平左衛門
鉄炮　田村　雅楽丞
同　上原　弥次郎
同　関　勘解由
弓　冨澤　源右衛門尉
鑓　小菅　六郎三郎
同　嶋村　市之助
同　田村　助五郎
同　ひこゑもん
同　かね　こ
同　狩野　志摩守
同　片貝　茂右衛門尉
同　おり田　内蔵助
鉄炮　すミや　七郎へもん
同　割田　与兵衛
鑓　九郎さへもん
同　太郎左衛門
鉄炮　関　又ゑもん
同　栗原　大蔵
鑓　小野田　市助
てつはう　しほ澤　専之丞
同　今井　左近
やり　細野　三郎左衛門
やり　つのた　新二郎

21　八幡山番帳　＊写

天正16年（1588年）卯月（4月）26日

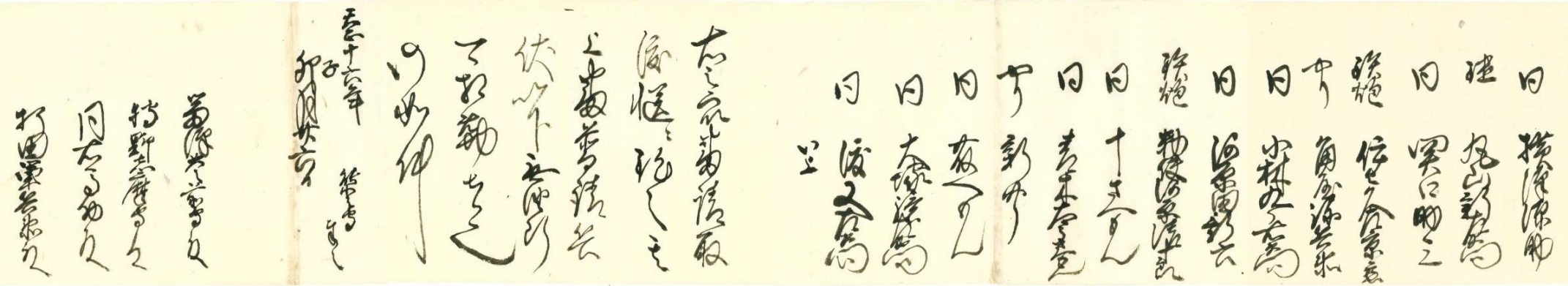
真田道の要衝にあった横尾八幡城（よこおはちまんじょう）（現中之条町横尾）の勤番衆書上（守備隊配備表）です。横尾八幡城に常駐した吾妻の地侍衆の名と鉄砲・弓・槍の武器名が列記され、一番、二番の名で、二班の交代制で各32名が記されています。真田氏が国衆ながら鉄砲を前線に配備していたことを示す興味深い史料です。翌天正17年12月、北条氏邦が横尾八幡城を攻めましたが、文書に見られるような鉄壁の守りで真田方は防戦し、北条軍を退けました。

冨澤久幸家文書　P0905　No.631



同　市　助
てつはう　唐澤　二兵衛
同　山口　織部
同　冨澤　与四郎
同　柳田　孫左衛門
やり　蟻河　源四郎
以上

二番
てつはう　おり田　雅楽助
同　冨澤　善内
やり　甚左衛門
同　番才　新左衛門尉
鉄炮　安原　市左衛門尉
やり　たゝミさし代
同　荒井　藤右衛門尉
てつはう　戸塚　源右衛門尉
鑓　七郎さへもん
同　すけ五郎
同　専助
鉄炮　けんもち　喜左衛門尉
同　森田　半衛門尉
同　九郎右衛門尉
てつはう　大畠　与右衛門尉
同　青木　孫衛門尉
同　長井　彦衛門尉
同　かん田　左衛門尉太
同　横澤　源助



鑓　丸山　新左衛門尉
同　関口　助三
鉄炮　伊与久　左京亮
やり　角屋　弥兵衛
同　小林　九郎右衛門尉
同　河原田　新六
鉄炮　勅使河原　清十郎
同　十さへもん
同　青木　太郎さへもん
やり　新　四　郎
同　藤へもん
同　大塚　孫左衛門尉
同　渡　又左衛門尉
以上

右之衆、番請取渡、慥ニ銘々其上、番普請兵伏（仗カ）以下、無二油断一可二相勤一者也、仍如レ件、

天正十六年
子　能登守（北能登守カ）
卯月廿六日　奉（これを うけたまわる）レ之

冨澤　豊前守殿
狩野　志摩守殿
同　右馬助殿
折田　軍兵衛殿

〔傍線部分読み下し〕

右の衆、番請取渡（ばんうけとりわたし）、慥（たしか）に銘々（めいめい）其の上、番普請兵伏以下（ばんふしんへいふくいげ）、油断無く相勤（あいつと）むべき者也（なり）、仍って件（くだん）の如（ごと）し、